

姫路獨協大学と姫路市が連携強化

開学37年を迎える姫路獨協大学と姫路市が、包括連携協定を見直し、地域医療に関する項目が新たに付け加えられた。医療系の総合大学を目指す同大学と地域の医療体制の充実に取り組む姫路市との連携が、播磨地域の医療にもたらす可能性とそれを支える人材育成のあり方について、自治医科大学の永井良三学長、姫路獨協大学の井上清美学長、姫路市の清元秀泰市長に語ってもらった。

(文中敬称略)

地域医療担う人材育成



姫路市と姫路獨協大学の包括連携協定に新たに地域医療の項目が追加され、調印式が行われた。姫路市役所



自治医科大学の役割と成果
自治医科大学学長
永井良三氏

地域医療向上のための自治医科大学の役割と成果
自治医科大学学長 永井良三氏
日本では今後さらに人口が減少し、高齢化が進行する。厚生労働省は、地域内で医療を分担、連携し、約30万人を在宅医療で対応するよう地域に促している。播磨地域においても地域社会を守るために医療体制の維持が欠かせない。自治医科大学は開学以来、へき地医療への貢献と地域医療のリーダー育成に取り組んできた。1年次から地域医療の現場で実習し、卒業生は全国の現場に散っていく。自らを「活」かしながら公のために貢献する「活私開公」の精神で、生涯にわたって学び続けてほしい。また本学は、過去13年間の医師国家試験の合格率は99.3%で全国トップクラスの成績であることにも言及しておきたい。



医療系総合大学に向けたビジョンと地域医療のための人材育成の取り組みについて
姫路獨協大学学長
井上清美氏

医療系総合大学に向けたビジョンと地域医療のための人材育成の取り組みについて
姫路獨協大学学長 井上清美氏
本学は1987年、全国初の公私協力方式により姫路市と獨協学園との協定に基づき開学した。以来、地域社会のニーズに応じ教育編成を変えてきたが、本年度から医療系の教育を充実し、医療系総合大学へ舵を切った。医療系多職種が同じキャンパスで学び、論理的思考力などジェネリックスキルの教育にも蓄積のある本学の強みを生かしたい。今後は人間社会学群でも医療情報や医療マネジメントなどの教育を拡充し、医療系事務職の育成にも注力していく。昨年には獨協学園が、姫路医療系高等教育・研究機構を県立はりま姫路総合医療センター敷地内に開設し、医療現場近くでの教育・研究機能を強化した。さらに本年度から全学連携体制で国家資格合格率を高めようと、自治医科大学医学教育センターの支援をいただいている。この地で地域医療を担う医療人を育てていきたい。



姫路市と姫路獨協大学の連携、期待することは
姫路市長
清元秀泰氏

姫路市と姫路獨協大学の連携、期待することは
姫路市長 清元秀泰氏
今後の人口動態に合わせ、播磨地域だけでなく但馬、丹波地域も含めたエリアで継続的に医療、福祉のあり方を考えていく必要がある。これらの地域は、人口当たりの医師数が全国平均を下回っているが、地域の基幹病院を中心とした医療体制を構築してきた。そのような中、昨年、県立はりま姫路総合医療センターが開設され、大学病院並みの病床数で高度医療が提供できる拠点ができたことは何より明るい話題だ。この姫路の地で地域医療人材を育てていくことを目指し、姫路獨協大学との連携協定を強化した。播磨地域全体の医療レベルの向上につながることを期待したい。

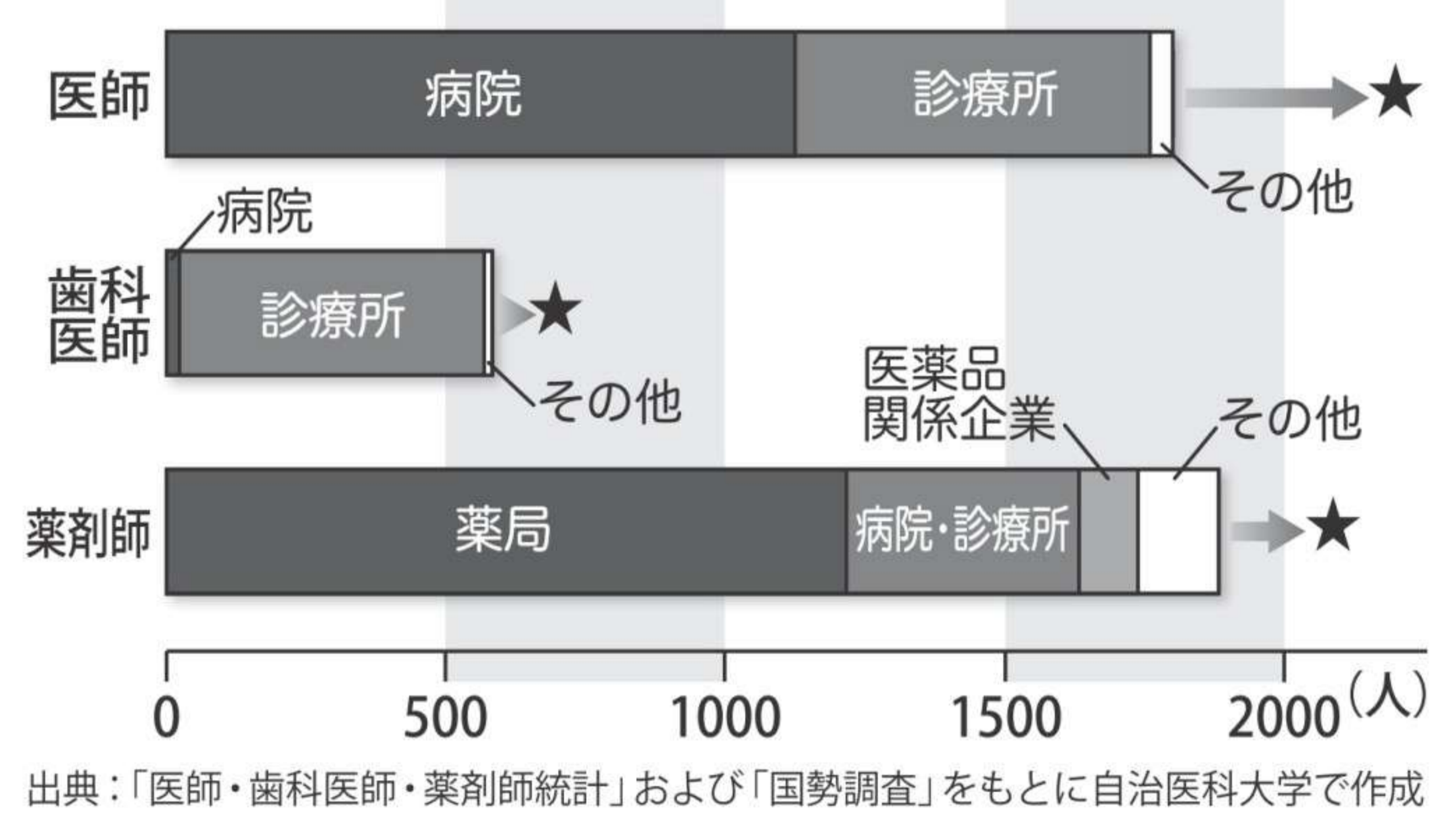
姫路獨協大学は2022年10月、地域の医療に貢献する薬剤師の養成に寄与することを旨とし、獨協医科大学との連携により、薬学部「薬学教育支援室」を設置した。学習習慣をつけさせる学生教育、教育能力を向上させる教員教育を柱としている。昨年度は、薬剤師国家試験の模擬試験および薬学知識を問うコンピュータ試験(CBT)の結果分析を踏まえた学生の個人面談を入れ、学生がどこで勉強に力を入れているのかを把握している。地域医療をテーマとした薬学部のシナリオ。新しく発足した「薬学教育支援室」は学生、教員の能力向上に注力する



聞き取り、より合格の可能性を高める環境づくりに取り組んでいる。

「薬学教育支援室」を設置

国家試験対策に特化



出典:「医師・歯科医師・薬剤師統計」および「国勢調査」をもとに自治医科大学で作成



1987年に全国初の「公私協力方式」で開学した姫路獨協大学。これまでに2万人を超える卒業生を輩出し、地域社会に貢献してきた。姫路市上大野



実験に集中する薬学部の学生。地域住民の健康増進、社会福祉の向上に貢献する薬の専門家を目指す

「★」は、医師、歯科医師、薬剤師数の全国値を、播磨姫路医療圏の人口に当てはめた数値
医師 病院 診療所 他
歯科医師 診療所 他
薬剤師 薬局 病院・診療所 他
1987年に全国初の「公私協力方式」で開学した姫路獨協大学。これまでに2万人を超える卒業生を輩出し、地域社会に貢献してきた。姫路市上大野
自治医科大学は開学以来、へき地医療への貢献と地域医療のリーダー育成に取り組んできた。姫路市役所



自治医科大学学長 永井良三氏

自治医科大学学長 永井良三氏
北窓 地域医療を担う人材を生かすためには、これまで以上に、タスクシフト(医師の業務の一部を看護師や薬剤師などの他職種に任せ、医師の業務に注力し、全国から毎年60人の受講希望者を受け入れ、指導を行っている。)

北窓 地域医療を担う人材を生かすためには、これまで以上に、タスクシフト(医師の業務の一部を看護師や薬剤師などの他職種に任せ、医師の業務に注力し、全国から毎年60人の受講希望者を受け入れ、指導を行っている。)



県立はりま姫路総合医療センターの教育研修棟に開設された獨協学園姫路医療系高等教育・研究機構

北窓 地域医療を担う医療系総合大学へ舵を切られた姫路獨協大学の取り組みについて教えてください。また、その取り組みに対する期待をお願いします。
井上 本学が医療人材を育成するリーディング大学となるため、地域の高校や自治体の推薦入試制を強化し、本学で学ぶ学生が、多様な人材がいて、それらのバックアップがないと地域医療システムは成り立たない。同一キャンパスで一緒に学ぶ機会を創出し、医療の現場で経験を積む機会を創出し、地域医療の現場で活躍する人材を育てていく。また、全学一体的な取り組みを推進していく。また、全学一体的な取り組みを推進していく。また、全学一体的な取り組みを推進していく。

座談会

永井 1年から学部横断的な教育
清元 リカレント教育の充実を図る

永井 卒業生に生涯通して支援
井上 同じ学内で学び専門職へ
清元 地域課題解決する大学に



看護学科の学内実習の様子。医療系総合大学へ舵を切った姫路獨協大学は、地域医療に貢献する人材の養成を加速させていく

永井 現在、内閣府では戦略的イノベーション創造プログラムの一環で統合型ヘルスケアシステムの構築に向けた研究を行っている。地域医療圏の中で患者がどこで受診されているかを把握でき、医療資源がどこで足りていないか、治療成績がどうかということが分かるようになる。「播磨姫路医療圏」のデータからは、圏域において医師やコメディカル(その他の医療従事者)が不足しており、医療従事者確保のための施策が必要であることが見えてくる。ゼミデータを活用して政策づくりに役立ててほしい。